INFORMATION

LECTURE&EVENT

GOOWA演劇公演「Rock Garden」

京都龍安寺に石庭がいかにして作られたのかという架空の物語。
○4月25日(土)17:00～、20:00～
26日(日)15:00～、18:00～
○当日前売りとも¥1500
○オオガネク　℡06-368-9380

SALT MAKERS演劇公演「だんだん緑になる」

○4月28日(火)19:30～
29日(祝)13:00～、17:00～
○当日¥2000／前売り¥1800
○印菜穂子　℡010-443-5964

パノラマ・パーク・クラブ「宮澤賢治パフォーマンス」

宮澤賢治の代表作を音楽と朗読で構成するパフォーマンス。
○5月7日(木)19:00～
○当日¥4000／前売り¥3600
○パノラマ・パーク・クラブ
℡06-774-0969

JOCS写真展「ときの共有」

アジアをはじめ医療保健が十分でない地域に人材を派遣するＪＯＣＳ。その活動実績と、派遣を行ってきた地域の現状を写真で報告します。
○5月21日(木)～27日(水)
10:00～19:00
○ＪＯＣＳ　℡06-359-7277

JOCS「ＪＯＣＳフェスティバル」

チャイあり、カレーあり、サリーの着付けありと楽しいコーナー満載フェスティバル。注目は世界一!?の口笛演奏者・山口修慶さんのミニコンサート。
○5月23日(土)13:00～15:30
○参加費1000円
○ＪＯＣＳ　℡06-359-7277

KURUBRSHI SAN演劇公演「ウチハソバジャナイ」

○5月30日(土)・31日(日)
詳細未定

ヘイルメリー演劇公演「悲惨な戦争」

最近力をつけてきた劇団です。今回の公演は、要注目です。
○6月4日(木)19:30～
5日(金)19:30～
6日(土)14:00～、18:00～
○当日前売りとも¥1200
○シマダ　℡0743-78-9449

林洋子ひとり語り－宮沢賢治「なめとこ山の熊」

昨年11月に公演された林洋子さんのひとり語り。今回は、薩摩琵琶の弾き語りによる「なめとこ山の熊」。その迫力ある語りは、きっとあなたのいのちに響くことでしょう。
○6月2日(火)18:30～
○大人2000円、中学生以下1000円
○林洋子ひとり語り実行委員会
℡06-771-7641(應典院内)

【以下は詳細未定です】「應典院邦楽ライブII」

○6月7日(日)

「一心寺住職高口恭行師講演会」

○6月12日(金)

コメディアンズ旗揚げ公演「BRANCH」

○6月13日(土)・14日(日)

ナーチェナーチェ「バリ・タイ・インド舞踊」

○6月20日(土)

橋口譲二写真集「視線」應典院にて販売中

前号でお知らせしました橋口譲二さん写真集「視線」を現在も販売しています。特定の書店でしか手に入らないものです。ぜひ、お買い求めください。

■アジアHANAMATSURI開催中止に
前号でお知らせしたアジアHANAMATSURIは、主催者の都合で急遽中止となりました。

【新入会員ご紹介】(1998年4月25日まで)

2月25日以降にご入会いただいた方々です。ありがとうございました。

○一般会員
【大阪府】
徐　貴吉　大阪市西区
青地歌音登　大阪市東住吉区
白木原達仁　堺市
【奈良県】
藤井　容子　奈良市
【滋賀県】
阪井　弘子　大津市

○学生会員
【大阪府】
高松久美子　大阪市西成区
大石　華法　大阪市北区
日高　望　大阪市阿倍野区
【奈良県】
泥谷　将　奈良市
以上9名、現在351名

サリュ VOL.7　應典院寺町倶楽部のニューズレター

発行日　1998年4月27日
(偶数月発行)
編集長　金下玲子
編集スタッフ　池野　亮、綾田直子

発行所　應典院寺町倶楽部
〒543-0076大阪市天王寺区下寺町1-1-27
TEL06-771-7641
FAX06-770-3147

應典院寺町倶楽部のニューズレター

Salut

［サリュ］
フランス語で救いの意

1998 APRIL



出会いというのは不思議なもので、最初から熱く意気投合することもあれば、二回、三回と顔を合わせることで、互いの琴線に深く触れゆくこともあります。いずれにしても、出会いにより人は成長し、自分自身を見つけだすのでしょう。人はあなたに出会って、わたしになる…應典院の一年は、正にこの言葉通りに過ぎようとしています。これからも多くの人が應典院に集い、多くの“わたし”が育まれていくことでしょう。寺町倶楽部の活動は、その一つひとつの出会いのゆりかご。私たち会員の手で、そして私たち会員みんなが“わたし”に出会うために、また一年、そしてまた一年と、活動を継続していきたいと思います。

寺町倶楽部の1年を振り返る



應典院寺町倶楽部がスタートしてちょうど一年が過ぎました。一年目ということで、大きなイベントも続きました。会員のみなさんにとっての寺町倶楽部との一年はどんなものでしたか？事業中心ではありますが、この一年を振り返って、これからの寺町倶楽部をみなさんと考えるきっかけにしたいと思っています。ほんの一部ですが、事務局が拾うことのできた会員の声と、これまでサリュで紹介できなかったエピソードもご紹介します。

橋口譲二写真展「職 1991～1995 WORK」(5/3～17)

應典院落慶記念イベントとして開催した、橋口譲二さんの写真展は1500人もの入場者で賑わいました。会員の阿部篤子さんは会場運営を手伝ってくださり、「ここに来ると疲れないんです。心に張りがでるんですね」と話してくださいました。

◆◆◆こぼれ話◆◆◆

関連イベントとして、5日間にわたり開催した「トークイベント」も多彩でした。モデルになった「一つの職にたずさわる人たち」と橋口さんが語り合うという日替わりのもの。線香職人の加藤浩司さんとの対談を終えた橋口さんは「こういう場に出たことは、彼にとって自信につながったと思います。それが顔に出ている」と語ってくれました。



南の風フェスティバル（6／22）

海外協力団体「シャプラニール＝市民による国際協力」が主催したバングラデシュのお祭りを寺町倶楽部は協力事業として応援しました。会場運営ボランティアを募ったところ、鶴本宣朗さんが参加してくださいました。また親子でお見えになった藤田礼子さんからは「アジアの国々の文化に初めて接することができました」という感想もいただきました。

寺町倶楽部設立総会(7／18)

寺町倶楽部の正式なスタートである設立総会。はじめて会員のみを対象にした交流会も行いました。出席は30人。初めて会員同士が倶楽部について語り合う場が持てました。

事務局交流会(9／12)

スタッフ募集の思いも込めて開いた交流会には、若い人たち約20人が参加。自分の得意な事、こだわりをもっている事などを交換しました。橋口譲二さんの写真展からのつき合いの大阪芸術大学写真学科の平畠美都さん、三谷良子さん、工藤三恵さんも参加。彼女たちはグループ展を應典院で開催したり、イベントの撮影をしてくれています。

シアトリカル應典院　舞台芸術祭 SPACE⊠DORAMA'97（10/3～11/3)

今年度の最も大きな事業だった舞台芸術祭。総入場者数は約1000人。これをきっかけに、若手の演劇関係者の間での應典院の知名度は一気に上がり、利用も随分増えています。

舞台芸術祭のプロデューサーの餘吾康雄さんの話。

「一カ月という期間は大変でしたが、今回、特に演劇の分野でのネットワークが広がったことが収穫です」

◆◆◆こぼれ話◆◆◆

餘吾さんの話にもあったように、舞台芸術祭の収穫は若手の劇団とのつながりが広がったことでしょう。その中で紹介したいのが「南船北馬一団」。主宰の古谷晃一郎さんや制作の森内倫子さん、演出の棚瀬美幸さんたちは、様々な形で事務局に協力してくれています。



自分感謝祭(12／26)

秋田住職オリジナルの、一年を振り返る音楽法要に60人以上が参加しました（協力事業）。電子オルガンの調べの中で一年の自分を振り返る、とても静かな時間でした。

◆◆◆こぼれ話◆◆◆

法要後の交流会では、餅つき大会も行われました。餅つきは見るのも、するのも初めてという人も楽しんでいただきました。一番リズム良く杵を振り下ろしたのは、学生会員の高山奈己さんでした。

寺町ミュージアム（3／18～24）

下寺町一帯で開催された「なにわ人形芝居フェスティバル」の期間に併せて、應典院が主催(倶楽部協力事業)した「寺町ミュージアム」。寺町の歴史をたどるパネル展示や子どもたちのアートワークショップなど應典院独自の企画が盛りだくさんでした。

寺子屋トーク

第1回の金香百合さんから、第8回鳥山敏子さんまで、さまざまな分野で活躍されている方を講師に招き、今日的な課題をテーマにした講演会を開くことができました。

2年目の寺町倶楽部

参加性の高い交流を

一年目の動きは、かなり大きなものだったと思います。大きなイベントも開催し、そのおかげで出会えた人たちもたくさんいました。けれども、これからの寺町倶楽部を考えると「会員同士」の交流がもっと必要なのではと強く感じています。

應典院では、毎日多くの人が出入りしていますが、案外会員の方が来られているケースが少ないという実感があります。

こういったことからも「会員の参加性の高い交流の機会を増やす」ことに重点を置くことが、2年目の寺町倶楽部が心がけるところになるのかな、と感じています。例えば、寺子屋トーク。会員の意見や要望を取り入れながら、共に作り上げていく形もとっていけるのではと思っています。

会費継続のお願い

寺町倶楽部の活動は5月が新年度になります。現在351人の会員の約7割以上が5月1日で会費の更新時期に当たります。今回は、別紙でそれぞれの更新月をお知らせし、振り込み用紙を同封します。

お一人お一人の支えと、参加意識で倶楽部は成り立っています。ご協力の程よろしくお願いします。

EVENT REPORT

■寺町ミュージアム

應典院ではなにわ人形フェスティバルの協賛イベントとして、3月18日から24日まで、寺町ミュージアムを開催。寺町の歴史や文化をさまざまなかたちで紹介、手作り博物館となりました。

1階では、寺町の歴史パネル展、ビデオの上映、仏教書の販売、似顔絵コーナーもあり、2階では寺町アートの展示、本堂ホールでは寺町にまつわるパフォーマンスも上演されました。 また、應典院屋上から生玉の森への連凧があげられたり、フリーマーケットも出店されたりと、雰囲気を盛り上げました。

■第8回寺子屋トーク

去る3月5日、〈賢治の学校〉主宰の鳥山敏子さんを講師に、第8回寺子屋トークが開催されました。

鳥山さんは、親子関係の中のさまざまな問題点を指摘、昨年の神戸のA少年の事件や、今年に入ってから多発する中学生のナイフ事件などについても、その原因が親子の関係に根深いことをお話くださいました。

また、アダルト・チルドレンの育ちや、根底に横たわる親と社会の苦しみについて、鋭く言及されました。参加者は114名。

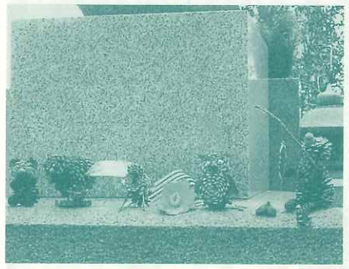
癒しの森フォーラム
ねいちゃーゲーム「小人たちとの出会い」を実施

寺町倶楽部団体会員の「癒しの森フォーラム実行委員会」が、なにわ人形芝居フェスティバル開催中の3月23日、應典院から南へ5分程の心光寺の墓地裏山でネイチャーゲームを実施しました。子どもだけでなく、大人の方々にも参加いただいたようです。ゲームの実践後記を、同フォーラムの赤尾整志さんから寄稿いただきました。

◇　◇

寺町倶楽部団体会員の癒しの森フォーラム実行委員会では、なにわ人形芝居フェスティバルが開催された機会を利用して、一般に呼びかけ、癒しの森（お寺の墓地裏山の自然林）でワークショップを行った。

まず、手づくりののぞきメガネ



を使って墓地の地面や石垣をミクロハイクし、いろいろな小人の国を発見しながら、小人の住む村にたどり着くといった筋書。ファシリテーターは以前ここでゲームをしたことのある地元の聖和エコクラブの子どもたち。参加者は、墓地を這うようにミクロハイクしながら裏山まで登ってくるが、そこで小人に会えるかが問題。実は、小人の正体は、雑木（当日はシンジュ、センダンを準備）の枝先にある葉痕と冬芽。じっと向かい合っていたら小人の格好にみえてくる（と期待していた）のだが、パッとイメージした子どもはあまりいなかったようだ。



それでもゲームが終わってから、斜面の無縁仏が見下ろしている小広場にシートを敷いて、草木おもちゃの創作が始まると、タヌキやライオンなど子どもたちの手による面白い人形がつぎつぎと出現。子どもたちの作品には、おもちゃ製作の指導に来てくれたボランティアのおばさんたち（大阪自然環境保全協会）もびっくり。日頃は滅多に入ることができないご先祖さまの場所で遊ばせてもらい、子どもらにも楽しいお彼岸の思い出になったと思う。

このたびのワークショップには、應典院、寺町倶楽部事務局の協力と場所を快く提供してくださった心光寺の山名雄光住職のご厚意に負うところが大きかった。

（表紙の写真は昨年11月のリハーサルのもの）

VOICE

秋田光彦住職が中心になって、應典院オープン当初から月1〜2回のペースで開いている「トークサロン」。約1年が過ぎて、毎回新しく参加する人を含めて、仲間の輪が広がっているようです。当初からの参加者である川口圭子さんの声をお届けします。

私にとってトークサロンは、「出逢い」の場である。老若男女、様々なお仕事の人が集い、こんな話をしたい、聞いてみたいと自由にディスカッションする。初めは秋田住職が明るく進行してくれるが、話す題材が決まれば、住職も奥様も加わり、グループに分かれて話をする。「話す・刻む・支える」この3つの約束はあるが、初対面の方とでも話がしやすい。

毎日、あわただしく過ごしていて、会社でもない、家でもない「お寺」にいる私は、「ただの私」である。お茶をいただきながら、ひと呼吸する。「私」に向き合い、解放する。それぞれの人たちも「ただの私」になってお話すればいい。子供になったり、大人になったり、おこったり、笑ったり、元気もらったり、あげたり…。その中には、素敵な言葉がある。人生も見える。だから私は、素直に聞ける耳を持ちたい。

「日々の暮らしの中で無数の人とすれ違いながら、私たちは出会うことがない。その根元的な悲しみは、言いかえれば、人と人が出会う限りない不思議さ、すばらしさに通じるのだ－」

亡くなった写真家星野道夫さんの言葉です。（地球交響曲第三番）

トークサロンに一つひとつ輝く星が集う。一期一会の星もある。また、手をつなぎ出した星たちもいる。これからもっとつながればいいなと思う。大きな絵が描ければいいなと思う。集う場をいただけて、ありがとうと思う。

秋田住職発 應典院掲示板

桜満開の4月3日、トークサロンの有志主催による夜桜の会があり、34名の参加がありました。案内から手配まで全部有志の手作りによるもので、ぼくも当日お呼ばれで参加、おかげで春の夜をホロ酔い気分で満喫させていただきました（こんないい企画、来年からは全会員に案内するゾ！…と住職の決意？）。

さて、應典院は3月決戦を迎え、大型企画が目白押し。連日の集いにうれしくもあり、少々バテ気味の春となりました。この1ヵ月に来寺された方は、のべ1千人を越え、劇場型寺院の実力を存分に発揮しました。

應典院がスタートして間もなく1年。手さぐりの期間でしたが、最近はいろんな方たちも出入りして、ますます「場」の魅力を高めています。とにかくあなたも一度、のぞいてみませんか（彦）。

■寺町ミュージアムで大にぎわい



春彼岸の好日、3月22・23両日、下寺町一帯で「第2回なにわ人形芝居フェスティバル」が開催、これに連動して、應典院では手づくり博物館「寺町ミュージアム」がオープンとなりました。

寺町の歴史と文化をさまざまなかたちで紹介する、市民参加型の博物館は、盛り沢山の内容でにぎわいました。

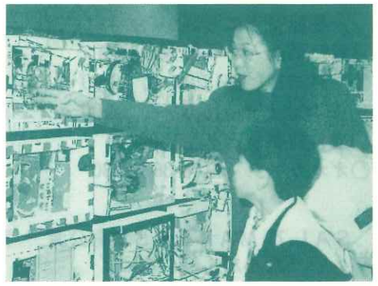
オープニングは、大蓮寺の広大な墓地の天空を凧が渡って開始（凧の会「風人」濱田將さん製作）、また1階ロビーには高さ3m近い巨大な三尊仏の絵像が祀られ（仏画家松原由紀子さん寄贈）、お彼岸気分を高めました。

1階では、寺町の歴史パネル展示、ビデオの上映、仏教書の販売、似顔絵コーナーもあり、2階では寺町アートの展示、本堂ホールでは寺町にまつわるパフォーマンス劇場も上演、すべて應典院にご縁のある市民団体やアーチスト参加によるものばかり。まさに地域密着型というにふさわしい内容となりました。

会場運営も全員がボランティアのスタッフが担当、自分たちの地域を自分たちの手で表現しようというところが、ひとつになった博物館でした。

一々お名前をあげませんが、ご協力いただいたみんさんに、紙上を借りて厚くお礼申し上げます。

■子どもたちと歩いた＜寺町アート＞完成



寺町ミュージアムに先立って、3月15日に、寺町を歩いてアートを創る「寺町アート探検隊」を実施、翌週21日には「工作隊」を実施して、のべ82名の大人と子どもの参加がありました。

こちらも日頃應典院とかかわりのある、若い建築家や都市計画家、アーチストなどが参加して、実行委員会が発足、まちづくりの共感を育むワークショップとなりました。子どもたちの合同作品は、長さ6mの巨大なもので、22日以降應典院で展示されました。

■春の法然上人25霊場バスツアー

お念仏の聖者・法然上人の遺跡を巡る、恒例の25霊場バスツアー（大蓮寺共催）。今回は以下の行程で実施します。どなたでも参加できますので、ふるってお申込みくださいね。

- 日　時　5月17日（日）應典院出発8時
  解散18時
- コース　四天王寺→一心寺→箕面・勝尾寺（昼食）
  →長岡京・光明寺
- 参加費　お一人10，000円
- 申込み　5月6日までにお電話ください。

【應典院トークサロンのお知らせ】

恒例のトークサロン、最近は新聞などの報道で知った方の参加も増えています。誰でも気軽に参加できますので、お友だちとご一緒にどうぞ。

今後の日程は以下の通り。会場は應典院です。

- 5月13日（水）　19時〜
- 6月10日（水）　19時〜
- 6月13日（土）　14時〜
- 7月8日（水）　19時〜